



2019年10月発行
第36号/4号



- NA初のPRウィーク
- 2年目となるスポンサーシップ デイ
- FD: ECCNA 35
- しばしの黙祷

世界中で
読まれている
NAの定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することに力も注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたくことにこそ力を注ぐ

NA World Services, Inc.

PO Box 9999

Van Nuys, CA 91409 USA

Telephone: (818) 773-9999

Fax: (818) 700-0700

Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのを待ちしている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されていない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

編集者から、ひとこと

今月号では、初めてのことで2回目のことを特集しました。NA初のPRウィークをはじめ、初めてテントで開催されたヨーロッパン カンファレンス&コンベンション、トルコに初めてできたNAグループ、新たに2種類誕生した『ベーシックテキスト』の翻訳版。そして、2人のメンバーがわかちあう2回目のやり直し。また、NAの祝日では2年目となるスポンサーシップ デイを間近にひかえ、『スポンサーシップ デイ記念メダル』も誕生して販売の予定になっています。そのほかにも、わたしたちがミーティングの終わりにささげる「2〜3秒の黙祷」について、あるメンバーが思いをつづってくれました。

回復の旅をしていけば、わたしたちはどこにいても必ず初めてのことに遭遇します。NA文献の『スポンサーシップ』には豊富な実例が掲載され、スポンサーシップが多くのメンバーにとって真の信頼、親密さ、心の広さ、正直さを学ぶ初めての関係になっていることがわかります。またNAにいても、わたしたちには初めて出席するミーティングやイベントやサービス委員会があります。そして、どのステップも初めて取り組むときがあり、回復の道を歩むなかで初めて愛する人の死に遭遇し、新しい仕事に就き、新しい人間関係や家庭を築き、新たな洞察を得るでしょう。初めてのことはいつだって心がときめくと同時に怖いものでもあります。わたしたちは回復を共にする仲間たちに支えられて歩みを進めていくのです。

そして、わたしたちにはNAのプログラムとスポンサーと経験があり、導いてくれるハイヤーパワーもいるのだから、ステップワークや、サービスの役割や、さまざまな人生経験も、2回目のときには怖さが薄らいでときめく(ほどではないにしても、悪くはないと思う)気持ちが強くなるでしょう。つまり、人生に何が待ち受けているかと穏やかさと勇気とやる気を持って前進してゆけば、わたしたちは数々の2回目、つまり何度となく訪れるチャンスが無駄にしないことを学んでいくのです。

[ド・J \(エディター\)](#)

今月号の掲載記事

特集記事	3	サービスセンター	13
• 2回目のやり直し		フェローシップディベロップメント	14
• 2回目のやり直しを一緒にやる		• ECCNA 35	
ベーシック・キャプション・コンテスト	4	• 中国語版『ベーシックテキスト』	
わかちあい	5	• アフリカーンス語版『ベーシックテキスト』	
• しばしの黙祷		グループ紹介	18
• その名は、ベヴ		2年目のスポンサーシップデイ	18
• 「回復しつつある」アディクト		Calendar	19
• 俺の生きがい		Products Coming Soon	19
『スピリチュアル・プリンシプルズ・ア・デ		NAWS Product Update	20
ィ』に関する書籍プロジェクト	7		
パブリックリレーションズ: 初めてのPR			
ウィーク	9		

表紙のアート作品: [ヨハネスブルク エリア「夏の終わりを祝う」](#)
アフリカーンス語版『ベーシックテキスト』発行記念イベントのチラシ

電子版は[ここ](#)をクリックすると追加のコンテンツを見られます

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからのお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

2回目のやり直し

さて、今日は、私には2回目となる4年目の「NA記念日」、というかクリーンタイムを祝う日だ。今の私は、いろんな感情がないまぜになって、平常心とはいえない。アデクションは、私が13年のクリーンタイムを過ぎて自分から歩みを止めようとしたという事実につけ込んで、私に負け犬の気分を味あわせたがっているが、これでもNAメンバーだから、自分が経験したことの価値を理解しているし、リラプスしたことも正直に何度でもわかちあえば仲間たちに役立ててもらえるのだとわかる。

アデクションは、生きていようと死んでいようとこの場にはいない人たちに焦点を合わせることで、私とその人たちや、みんなや、なにかずく自分自身を失望させたのだと告げる。だが、これでもNAメンバーだから、そのような考えがどれほど尊大で思い違いであるかわかっているし、自分が失った人たちや傷つけた人々を敬うためにも、私たちはNAにとどまって変わり続けるのだと教わっている。

アデクションは、孤独に居座り、敵意と恨みに満ちて、自分にとられてこだわり過ぎ、愛と寛容と善意に心を閉ざす。でも、NAメンバーであるなら、仲間たちにしっかり守られ、楽しく心穏やかで、私心がなく公平で、安心して弱さをみせることができ、愛に満ちて、人を思いやり、役に立つことをせずにはいられない。アデクションはごちゃごちゃ考えて頭を混乱させるが、NAメンバーであるなら良心によって迷いが無い。

このように相反するものは、バツサリ切り離すのではなく、折り合いをつけることで安定する。それが、今の私にとっての回復だ。正直にわかちあい、仲間と関わり、NAのステップを使うことによって、ぶれなくなっていく。そして、こう考えれば、折り合いがつく。アデクションと回復とはまったく別個のものではないし、どちらも自分から切り離すことのできないものだ。この2つがあって私なのだから、その事実をきちんと受け入れないとうまく自分のなかにおさまらない。アデクションを受け入れなければ症状が悪化するし、回復を拒めば成長が止まって生きる気力がなくなるだろう。

受容、すなわち自分があるがままに受け入れることが必要であり、それこそがこれまでNAでいただいた最高の贈り物だ。そのおかげで、私はリラプスした自分を受け入れることができたのだ。そう思えばこそ、2回めのチャンスを無駄にしたくない。こうしてやり直せるのが、「NAのありがたさ」だ。

先日、私がNAの記念日のことリラプスしても戻ってくることができた幸運のことをわかちあった後で、何人もの仲間から連絡をもらい、みんなも同じ経験をしたり、今まさに同じ経験をしていたりするのだとわかった。みんなでも苦しみをわかちあい、希望をわかちあった。そして今日、そのうちの一人がこの写真を送ってくれた。私がかつてに経験したことが、お互いの道を見つける助けになったなら、苦汁をなめた甲斐があるというものだ。

ハイメ・V (アメリカ合衆国 / マサチューセッツ)



2回目のやり直しを一緒にやる

わたしはクリーンになってから8年半の間は、日々の棚卸しと感謝の気持ちによってアデクションにつけ入るスキを与えませんでした。そして4ヶ月前に、手術を受けることになったのです。術後の痛みは大変なものでしたが、4ヶ月経てば日常生活に差し支えないくらいに治り、わたしはすっかり元気になってしっかり生きていてもおかしくありません。でも、4ヶ月など一生の間ではわずかな期間ですが、投薬治療の危険性がまったくないふりをするには長すぎました。

8日前、わたしは処方薬の残りをもうひとりの回復の道を歩むアデクトにゆだねて、処方通りに服用させてもらえるようにしました。さんざん自分の行動をとりつくりおうとしたけれど、わたしは

今日、ミーティングで立ち上がって白いキータグをいただきました。誇らしくもなんともなく、すっかり負け犬の気分が席に戻りました。そして、ハイメのリラプスに関する投稿を読んで、もう一度やり直すのはわたしだけじゃなくなったのです。

それで、わたしはようやく、一歩、一歩、回復の道を歩み直していくようになりました。何年ものクリーンタイムをフイにしても、こうやってやり直せることを仲間が教えてくれたからです。ありがとう、ハイメ。

アノニマス(アメリカ合衆国／カリフォルニア)

ベーシック・キャプション コンテスト最優秀賞

ベーシック・キャプション・コンテストに、
応募いただいたみなさん、ありがとうございました。
今回の傑作に選ばれたのは、

メリッサ・J (アメリカ合衆国／メリーランド) です。

役に立つこと：

スピリチュアルなプログラムによる無言の贈り物。

*ベーシック・キャプションは、
「ツボを押さえたひとこと」です。



ほかにも優れた応募作があったので、以下にご紹介しましょう。

私たちの回復は、献身的なサービスによってあらわされる。

アントニオ・B (ブラジル／サンパウロ)

.....

夢があるから、NAによる回復の道を歩んでいける。

ジェイムズ・S (アメリカ合衆国／ネブラスカ)

.....

希望のメッセージ：自由を約束するもの。

ベン・H (アメリカ合衆国／オレゴン)

BCC 次のお題

撮影者：アート・M
(アメリカ合衆国／カリフォルニア)

ここに、みなさんがNA Wayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。左にある写真のキャプションを書いて送っていただければ、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの(1点とは限らないかもしれませんが)を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前が載るといっても、なかなかいいものなのでしょう。

申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先は naway@na.org。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。



しばしの黙祷

NAメンバーの多くが、打ちひしがれてナルコティクス アノニマスにつながれたのは、愛する人や家族や友人たちの祈りが通じたからだと信じている。命を救うメッセージが伝わってくる場所にどうやってたどり着いたのか、まったくわからないからだ。

あたしはどうかという、祈ってくれる人など、NAにたどりつくころにはひとりもいなくなっていた。薬物を手に入れて、使って、もっと手に入れようと躍起になっているときに通りでかかわりができたけど、そんなのはただの知り合いで、友だちなんかいなかった。家族とは会うことも口を聞くこともなくなって10年以上経っていた。日々暮らすなかで、あたしのことが家族の頭をかすめたとすれば、いつかドアをノックする音や電話によってあたしの死を知ることになるんじゃないかということだったろう。

あたしをNAにつなげてくれたのは、アディクトたちだ。ミーティングの終わりにNAの仲間たちがしっかり手を組んで、それぞれに理解しているハイヤーパワーに向かってしばしの黙祷をささげるときに、まさにそれぞれの熱い思いと祈りがひとつになることによって、あたしは命を救われた。あたしにとっては、あのようなひとときにこそ特別な意味がある。あたしは顔を伏せて、23年を超える月日の大半を過ごしたゴミ箱の裏と路地を思い描く。そこには、その他大勢のアディクトたちがいて、その名も知れぬアディクトたちに差しかける癒しの光線がありありと浮かんでくる。

これほど大事なひとときが、今のNAのミーティングではないがしろにされているのを目にすると、あたしは苛立ちを覚える。だいたいにおいて、だれもかれもが忙しそうだ。立ち上がって、祈ったかと思う間もなく、会場から出て行ってしまふ。黙祷の時間はわずか3秒になってしまったし、その3秒でさえ黙しているとは限らない。回復の道を開いてくれた人たちに対しても、あたしたちが後につながれるように祈ってくれた時間に対しても、感謝する気持ちはないのだろうか。まだ暗闇のなかでさまよっている人たちの思いやる気持ちはないのだろうか。



あたしは心を無にして、じっくり15秒は黙祷したい。こうして自分の住んでいる地域や世界中のアディクトたちにメッセージを送るときには、感謝の気持ちがものをいう。あたしたちがしばしの黙祷をささげることで、救われる命があるのだ。そうよ、あたしは助かったもの。まちがないわ。

デブラ・R (アメリカ合衆国/カリフォルニア)

その名は、ベヴ

ぼくは、ブライアン。カナダのナイアガラ フォールズに住むアディクトです。ナルコティクス アノニマスという集まりには、言葉にできないくらい感謝しています。NAによってもたらされた贈り物は数えきれないほどあり、自分の理解する神との関係が築かれたこともそのひとつ。ぼくのスピリチュアルな旅は、NAの一員となって毎日祈るようになったときに始まったのだと思っています。日々の祈りは、仲間が勧めてくれたことで、ぼくはクリーンを保つためならなんでもしようという気になっていたから、祈ったんです。最初はロボットのように心がこもってない気がしたけれど、やがてそうやって日々祈ることが意味深いものに思えてきました。そしてクリーンで数ヶ月が過ぎたころ、ハイヤーパワーはスピリチュアルな「めぐりあわせ」を示すことで、ぼくが正しい道にいることを教えてくれたのです。

ぼくはクリーンタイムが6ヶ月ぐらいになっていて、キャンドルミーティングに出席していました。キャンドルミーティングでは、どういうわけか、アディクトたちは自分の抱える問題を洗いざらいその場に「ぶちまける」傾向がある。あのころのぼくは、他人の問題なんかどうでもよくて解決策が知りたかったから、「問題があるなら、スポンサーと相談しろよ」と思って聞いてました。クリーンになって6ヶ月で、ぼくは気むずかしいオールドタイマーもいとこでした。ほら、またひとり、気のめいるようなことを話し始めた。ぼくはすごくイライラして、外にタバコを吸いに行

こうと席を立ちかけたとき、その男性が最近亡くなった仲間のベヴという女性のことを話し始めたのです。「ベヴ？ ベヴってだれだっけ？」と、ぼくは考えていました。

あ、そうか。ベヴには一度会ったことがある。ミーティングに出席したら最後の最後までじっとしていることが大事で、途中で席を立ったり早く帰ったりしちゃダメだよ、という話しをしたんだ。まさに席を離れるところで、あのときの会話がよみがえるなんて、「座って、この仲間の話を聞いてなさい。ミーティングが終わるまで席を離れちゃダメでしょ！」と、ベヴに言われてるようでした。このことは、ぼくに畏怖の念を感じさせる初めてのスピリチュアルな経験になったのです。

それからぼくはクリーンタイム1年を迎え、またもや、ためになるスピリチュアルな経験をしました。それは、NAによってぼくの人生にもたらされた非常に充実したお祝いでした。ぼくの血のつながった家族とNAの家族とが初めて顔を合わせ、すっかりうちとけていました。たまたま、ぼくのグループに1年の豪華なメダリオンを寄付してくれた仲間がいたので、ぼくはメダルを買わなくてもよかったです。何もかもうまくいって、ミーティングはとどこおりなく進行しました。涙と笑い声があり、スピーカーの話もグッとくるものでした。それからスポンサーが立ち上がって、ぼくに1年のメダリオンを手渡すことになり、こう言ったのです。「ブライアン、この美しいメダリオンは、ある女性から寄付されたものだ。すでにこの世を去ってしまったけれど、とても大切な仲間だった。その名は、ベヴだよ」

ブライアン・S
(カナダ/オンタリオ)

「回復しつつある」アディクト

僕は、回復しつつあるアディクトのジェイ・P。そう、言うなれば、回復の道歩むアディクトだ。同じことを何度も言っていると考えや行動が固まってしまうから、僕はこんな言い方をすることにしていく。僕自身は、アディクトであることを無力感、絶望感、不幸と結びつけて考えている。使わずにいられたところの僕は、アディクトのように考え、アディクトのように行動したことで、アデ

ィクトになっていた。だから、野宿したり、腹を空かせたまま眠ることになったり、はたまた、薬物の金を得るためなら物乞いやゆすりたかりもやったりと、正気の沙汰とは思えない状態になっても、とにかくもう何が何でもかんでも薬物を使わずにはいられた。状況や結果が悪かろうと何だろうと、僕の人生で何よりもまず大事なものは薬物だった。服用したり、注入したり、吸い込んだりしていれば、心が安らぐと思っていたが、実際には何も感じなくなってぼうっとしていただけだった。

僕にとっては、そんなことをしていた人間はアディクトだった。僕はもう、そういう人間ではない。だからこそ、僕は自分の脳を鍛え直して自分に対する見方を変えているんだ。

回復しつつあるという事実を認識するのと同じくらい単純なこと、つまり使っていないし、成長しつつあり、良くなっているという事実によって、僕は劇的に自信を取り戻した。回復しつつあるという言葉をつけ加えることで、僕は自分を絶望視しなくなった。僕は回復の道歩むアディクトとして、薬物を断ったままアディクションを治療するために自分ができることについて絶えず洞察を得ている。長い時間をかけて社会と自分自身によって刷り込まれたことは、簡単には取り消せなかった。僕は回復の道歩むアディクトとであることを、しっかり自覚して、忘れないようにしなければならぬ。それでも時間が経つうちに、このような新しい健康的な習慣が身につけば、無意識のうちに回復しつつあるアディクトであることを自覚できるようになるし、それによって僕の人生はずっとよいものになるだろう。

ジェイ・P
(アメリカ合衆国/ペンシルベニア)

俺の生きがい

俺は、使いまくっていたところにトラックを運転していて高速道路から転落した。それによって頸椎の損傷、第1度から第3度の火傷、重度の頭部外傷、肩の脱臼のほか、いくつかの切り傷や擦り傷を負った。

俺は、病院で3ヶ月半を過ごした。医師たちによれば、頸椎の損傷部分があと1~2センチ下だったら、下半身マヒになっていたそうだ。みんな、俺の脳がめっちゃくちゃにならなかったことに驚いていた(それについて、いまだに疑問だな(笑))。入院している間、俺は「助かってよかった」なんて言うこともなく、「ああ、またやっちゃったぜ」とぼやいてばかりいた。

それから5ヶ月して、友人の一人が低木地帯に墜落した飛行機事故で死んでしまった。「なんで俺は助かって、なんであ



いつは死んだのか」と考えさせられた。数日後、自分たちの宗教を伝えたいという人たちが訪れてきたので、俺は家に招き入れ、俺は生きていて友だちは死んだのはどうしてなのかとたずねた。俺は答えをもらったが、それは信者たちに役立つ答えで、俺には役立たなかった。このことは俺の頭から離れず、なぜ俺は生きているのかと問い続けた。

答えは、俺のクリーンタイムが2年を過ぎたばかりのときに見つかった。俺が事故で死ななかったのは、神が俺のために計画を立てていたからだ。その計画とは、回復の喜びをわかちあうことだった。

俺はクリーンになってから成人の学生として大学に行き、学士号を取得した。そのあとで教育実習を終了したのだが、その実習期間中に、俺が薬物にハマって、クリーンになり、信じる心をもつにいたるまでの旅を、授業で話してほしいと頼まれた。これは、すごくうまくいった。

その翌年の夏に、俺は、北米先住民族の高校の生徒と中等教育を終えた生徒に対して学生支援サービスを提供する組織で働いていた。市内にある職場に行こうとしていると、バスを待っている学生の集団から俺を呼ぶ声があった。「B先生！ B先生！」。立ち止まって振り向くと、声の主である15歳の少女が俺の方へ歩いてきた。少女は、俺が回復にまつわる経験を話したときのクラスにいたということだった。あのとき、少女は薬物を試すようになっていたらしい。あのクラスで俺が伝えたメッセージによって、少女は使うのをやめて自分自身の信仰に頼るようになったのだ。

神の計画は、すでに俺の生きがいになっている。回復の喜びをわかちあうことによって、「アディクトであれば、どんなアディクトも、使うのをやめて、使いたいという欲求がなくなり、新しい生き方を見つける」ことができるからだ。

マイク・B (カナダ/マニトバ)

『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ』 (SPAD)に関する書籍 プロジェクト 最新情報

NAの新しい本が、まとまりつつあります。2018年度のワールド サービス カンファレンスでは、スピリチュアルな原理を毎日ひとつずつ 探究する本のプロジェクトプランが承認されました。これは、2017 年度のNA文献調査で以下のような希望がメンバーたちから示さ れたことによるものです。

- 仲間たちの声を聞きたい。
- 仲間たちが、日々の生活のなかでどのように原理を生か しているのか知りたい。
- スピリチュアルな原理によって生きると、どういう人生を 歩めるのかということが知りたい。

私たちは、2018年8月にフロリダ州のオーランドで開催され たワールドコンベンションで、メンバーたちが書いたものを収集 する取り組みをはじめました。それがNA全体による取り組みとな って以来、本の原資料が大量に提供されてきました。これまでに、 サービス委員会による集会やコンベンションをはじめとして、キャン プアウト、ピクニック、リトリートなど、考えられるあらゆる種類の NAのイベントが開催され、そこで行われた55の『SPAD』に関す るワークショップでメンバーたちが書いたものが寄せられました。

そして、ミーティングの前後に書くことに関するワークショップ を行っているNAグループがたくさんあると知り、その熱意と創 造性に頭がさがります。また、オンラインフォーム(インターネット の記入用紙)を利用して、多くのメンバーたちが真夜中に自分 の経験を書き送ってくれていることにも感謝しています。もちろ ん、グループやメンバーたちがいつ、どんなときに、どこで、どう書 いているのかなど、私たちにわかるわけがありませんが、大切な のは書いているということです。しかも、このようなグループや メンバーたちは、これみよがしにソーシャルメディアを騒がせる こともありません。ただ、アディクトによるアディクトのための書 籍を作る手助けをしたい一心で、無名にとどまっているのです。

みなさんがこの記事を読むころには、9月1日が過ぎて第1弾の



心にあることを書きとめる

『スピリチュアルプリンシプルアデイ (SPAD)』の原資料をつくるために、メンバーたちがこの書籍プロジェクトに関する原理や引用をさまざまなやり方で活用していることがわかって、わたしたちは大喜びしています。また、『リーチングアウト』による求めに応じて、ノースカロライナ女子刑務所の受刑者たちとアーカンサスの連邦刑務所から投稿がありました。そしてカリフォルニアの2つの刑務所では、受刑者たちが書くことで貢献できるように、H&Iのパネルリーダーたちから『SPAD』に関する原理や引用が伝えられています。扉の向こう側にいる仲間たちからこのような投稿があるのを、とてもうれしく思っています。

原稿見直しに関する意見提供は締め切られているでしょう。でも、落胆することはありません。私たちは、これから日々の項目も増やして、見直しと意見提供(R&I)の原稿をさらに3回配布する予定です。第2弾のR&Iに関する資料には「序文」の原稿と本文で取り上げる原理の一覧表を盛り込むことになるでしょう。これは、2019年11月の初めに発表する予定です。

その間もひきつづき、みなさんが書いたものをお寄せいただくようお願いいたします。以下については、www.na.org/spadをご覧ください。

- 意見提供のヒントにするため、現在の取り組むべき原理とNA文献の引用を確認する。
- インターネットの接続機器から自分の書いたものを提出する。
- SPADに関するワークショップの進行資料をダウンロードする。

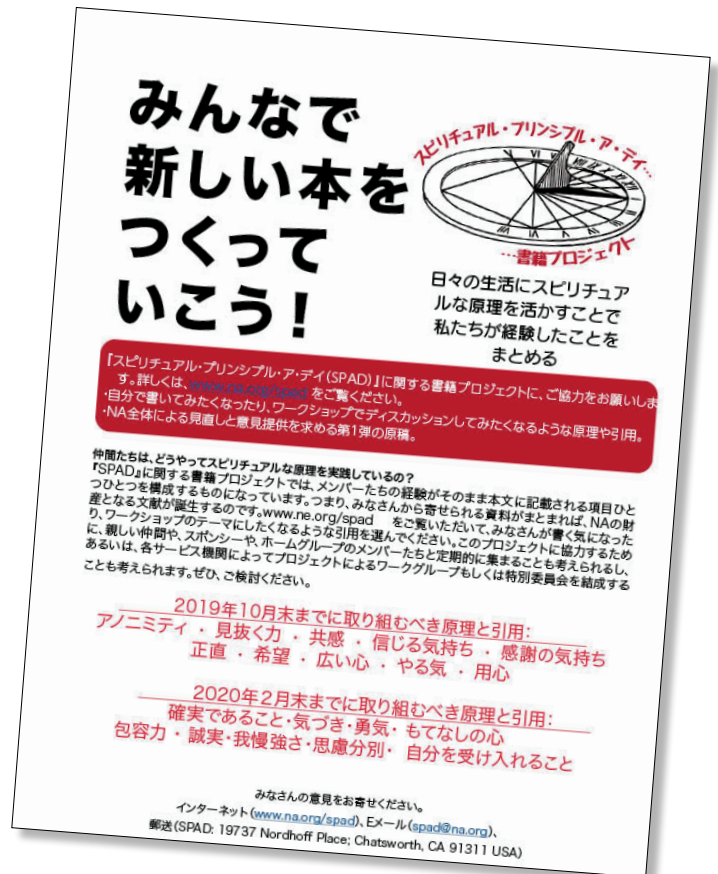
みなさんが力を尽くしてくださることに、心から感謝いたします。

これからも、どうぞよろしく!

「オール・シングス・スピリチュアル」グループ『SPAD』に関するワークショップ

フロリダから、こんにちは! ナルコティクス アノニマスの「ユニティスプリングスエリア」からお便りします(2018年のオーランドのワールドコンベンションは、ここから約35マイルのところで開催されたんですよ)。私たちは、土曜日の午後4時30分に「オール・シングス・スピリチュアル [ありとあらゆるスピリチュアルなもの]」という新しいミーティングを始めました。『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ (SPAD)』に関する書籍プロジェクトのウェブページ (www.na.org/spad) にあるNA文献の引用を使って、毎週ひとつずつスピリチュアルな原理をじっくり学んでいます。ミーティングでは、始めにリーディングカードを何種類か読み、それから『SPAD』という書籍プロジェクトについて簡単な説明をします。そのあとにひとつずつ、NA文献の引用を読んで、それについてわかちあってもらうことにしています。たいしては、6つの引用についてわかちあう時間があります。

「ユニティ スプリングス エリア」のメンバーたちのなかには、このようなミーティング形式によって『SPAD』の原理を積極的に活かせるようになったら『ガイディング・プリンシプルズ』の原理にも取り組めるようになったというメンバーもいます。つまり、あらゆる局面で原理を実践することの大切さを再認識できる形式でもあったというわけです。この書籍プロジェクトには、本当に感謝しています。





パブリック リレーションズ(広報活動)

NA初のPRウィーク

ガーナでのPR



ガーナのNAは、元気に今も成長を続けています。「PRウィーク」にはNA全体が直接集まるのは無理だったので、インターネットによってお祝いをしました。オンラインのオープン・フォーラム(公開討論会)を開いて、メンバーたちがPRについてわからないことを質問できるようにしたのです。これは対話形式にして、司会者が話し合いの進行を務めました。

当日は、新しい仲間のひとりから、こんな質問がありました。「PRって、何ですか? 矯正施設の関係者と対立しないで施設にいるメンバーたちにメッセージを運ぶには、どうしたらいいのでしょうか」ガーナでは、刑務所を中心とする関係機関のほとんどが、アディクションを病気ではなく道徳的な問題だとみているため、なぜNAがやってきて施設の収容者に希望のメッセージを運ばなければならないのか、わからないのです。こうしたことが、ガーナでPR(広報活動)をするうえで最大の課題となっているため、NAのワークショップやフォーラムによってガーナにある施設の世話役と関係者に情報を伝えながら理解をうながそうとしています。

また、別のメンバーから、地元の警察署でPR(広報活動)を行うことについて質問があり、NAのイメージを損なわずにPRを行う方法についても議論を尽くすことができました。このほかにも今回のフォーラムではさまざまな考えや提案が示されたため、月に一回開かれるリージョンの会議でじっくり検討することになりました。私たちは、今年の「PRウィーク」で行ったことに満足しており、来年の「PRウィーク」には日替わりでいろんなイベントを企画したいと思います。

フェストゥス・M (ガーナ)



チェサピーク&ポトマックおよび
フリーステート リージョン
(アメリカ合衆国)

ウィスコンシンリージョン & バッジャーランドエリア

ウィスコンシン州は地理的に広がっているため、「PRウィーク」をひとつのイベントにすることはほとんど不可能です。そこで、ウィスコンシンリージョンのPR小委員会で作成した「PRウィークTシャツ」を各エリアのPR小委員会が購入して、それぞれのPRウィークに関する取り組みで着用するというにしました。また、Tシャツの販売では余剰金も発生したので、7種類のIP(インフォメーションパンフレット)を23部ずつ購入してリージョンの6つのエリアに提供し、それぞれのPRに関する取り組みで利用することにしました。

わが「バッジャーランドエリア」では、エリア主催のピクニックによって「PRウィーク」が始まりました。参加者たちはNAワールドサービスによるPRとフェロウシップディベロップメントに関する情報を共有してから、案内チラシとポスターを100部ほど配って回りました。ポスターは一枚一枚、いろんなところに「とびこみの訪問」をして掲示をお願いしました。ある病院では、緊急治療室のスタッフたちがNAに関する情報をきわめて重要だと思ってくれたため、わざわざ病院の掲示物をよけてNAの案内チラシを置くスペースをつってくれたのです。また、アディクトたちはトイレで薬物を使うことが多いので、地元のコンビニエンス・ストアのチェーン店にもチラシを置かせてもらいました。従業員のひとりには、アディクトたちが廃棄処分の針を使用するために「針や注射器」の専用容器を持ち去ってしまうのだと言っていました。このチェーン店では、よるこんで店内にポスターを何枚か貼らせてもらうし、このままずっとはがさないでおくと言っ



てくれました。はたして、ここに貼られたポスターがどれだけ注目を集めるのかわかりませんが、ウィスコンシン州で最大のコンビニエンス・ストア・チェーン店のひとつに掲示されることにはなりました。

そのほかにも、地元にあるいくつかの警察署と郡の刑務所にもポスターを掲示してもらいました。今後の掲示につながるように、今回の掲示場所を全部記載したリストもできています。大都市ではバスのなかにNAの案内があり、その内容もポスターと同じなので、今回の案内チラシはほとんどをバジジャーランド エリア内の小さな町に置かせてもらいました。なお、「PRウィーク」を祝うこととは関係のないことですが、共有するのが大事だと思う情報があります。バジジャーランド エリアの資金により、1月～3月までの3ヶ月にわたって州都マディソンを走る50台のバス内にNAの案内が標示されることになりました。また、ジェーンズビルでは8台のバスに、ロイトでは6台のバスに、それぞれNAの案内が標示され、どちらの場合も一年中目にするできるようになっています。バス会社の方で、私たちさえよければ、このままずっと標示しておきたいといってくれたのです。ナルコティクス アノニマスの存在と連絡方法をアディクトたちに知ってもらうために、強い味方ができました。

マイク・R (ウィスコンシン リージョン PR小委員会)

Semana de Relaciones Públicas
Del 3 al 9 de Junio/2019 Región Colombia

Talleres virtuales por zoom

TALLER DE IP - ÁREA DE CARTAGENA
3 Junio, 2019 - Hora: 11:00am
Bogotá

Unirse a la reunión Zoom
<https://zoom.us/j/774818247>
ID de reunión: 774 818 247

Instalar este programa Cada día tiene un link diferente, se enviarán días antes de cada taller

zoom
Conectarse
10 mnt antes

Para mas información:
relacionespublicasnacolombia.org

カルタヘナ エリア (コロンビア)

Inland Empire Foothills Area
1ST Annual PR Week
PICNIC

Saturday June 8, 2019
11am - 2pm

Littlefield/Shultis Park
Shelter # 2
2525 W. Kendall Way,
San Bernardino, CA 92407

FREE EVENT

Multiple Speakers
with 20+ clean time

Free Food

PR Committee is looking for
Volunteers to Help at Event &
Raffle Prize Donations
Nikkei or Chris (909) 547-3525

Raffle Tickets
Available for Purchase

インランド エンパイア フットヒルズ ASC
(アメリカ合衆国/カリフォルニア)

ノルウェーで活気づくPR

ノルウェーのベルゲンでは、「NAのPRウィーク」を新しい方法で手を差しのべる機会にしようと、メンバーたちが一体となって活動に取り組むことができました。ベルゲンはノルウェー第2の都市といっても、人口30万人ほどの小さな市です。このNAはまだ新しくメンバー数もかなり少ないのですが、成長しつつあります。

私たちは、まず、メンバーたちにブレインストーミングをしてもらいました。テーマは、「私たちに何ができるか、どこから始めればよいのか」。このセッションでは、NAという集まりがもっと知られて存在が明らかになることでアディクトがつながりやすくなるために、素晴らしい提案が数多く示されたのです。ついに6月3日がやってきたときには、以下のような活動の準備ができていました。

- ・公立図書館にNAの文献を寄贈する。
- ・地元の新聞(ノルウェーで3番目に大きな新聞社)の誌面に広告を掲載する。
- ・市内の至るところに、案内チラシやポスターを掲示する。
- ・国内で最も大きな病院に、「ファーマシー・カード」と案内チラシを置いてもらう。
- ・地元にある刑務所の図書館に、NAの文献を寄贈する。

私たちは実に多くのことを学び、世界各地のNAがPRに励んでいることですっきりやる気になりました。「PRウィーク」は、ベルゲンのNA全体に活気を与えるものになったのです。活動の準備と実行でも、そしてまだ苦しんでいるアディクトに手を差し伸べるという目的のいくつかを達成することでも、すばらしい一体感がありました。新しい方法でメッセージを伝えることは実に楽しく、感謝にあふれ、優しい気持ちになるものでした。2019年6月、NA初の「PRウィーク」という好機が訪れたことに感謝します!

ミー・M、ルーネ・K、スザンヌ・F、ロルフ・L
(ノルウェー/ベルゲン)



ベルゲン (ノルウェー)



フィリピンリージョン

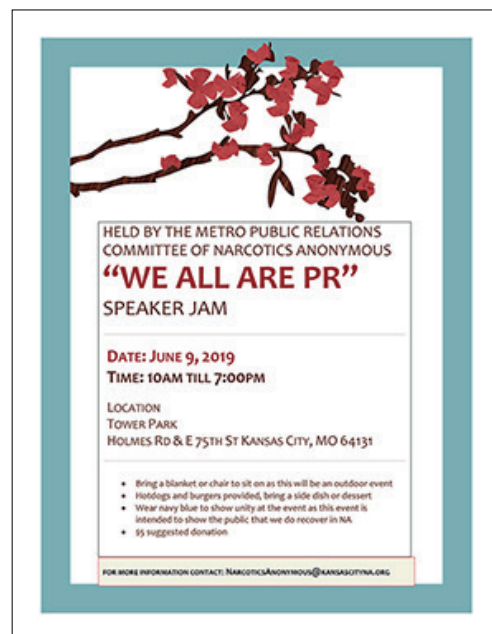
フィリピンリージョンでは、3つの地域でいっせいに「PRウィーク」を祝いました。ルソンエリアとビサヤエリアでは、刑務所や近隣の地域でNAのことを紹介するプレゼンテーションを行ったほか、役所や、学校、村、分譲地の入り口などにNAのバナーとポスターを掲示しました。ビサヤエリアでも、新しい仲間たちのためのラーニングデイ（勉強会）を実施しました。また、ミンダナオエリアでは、ホテルのフロントデスク（受付）、ドラッグストア、路上、教会、役所と、さまざまところにポスターを貼らせてもらったので、NAのユニティデーの週末にはもっとPRの活動に励む予定です。

フィリピンのNAがとても活発であることを、実に誇らしく思います。私たちは互いに助け合い、アディクションという病気はアディクトを死に追いやるものだと認識しています。フィリピンのNAが大きくなっていくことで、いくつもの命が救われているのです。NAは、アディクションに対する実行可能な解決策として知られるようになってきました。

ジミー・C (フィリピン)



Philippines Region



Kansas City Metro, Missouri, USA

シカゴランド ウォーク／ラン＆ サービスカーニバル

シカゴランドリージョンのPR小委員会による初めての「PRウィーク」は、「5K 4 NAウォーク／ラン（NAのために5キロを歩いたり走ったりすること）」で幕を開け、バーベキューを楽しんだあと、サービスカーニバルによって幕を閉じました。「5K 4 NAウォーク／ラン」は美しい森の散歩道がある地元の森林保護区で行われ、バーベキューとサービスカーニバルは保護区の屋根付きパビリオンで開催しました。

参加したメンバーたちには、さまざまな種類のPR活動を行う方法が伝えられました。具体的には、PRブースによる広報活動のやり方の説明、刑務所をはじめとするさまざまな施設でのH&Iサービスの基本、塀の向こうのサービスに参加するためのガイドライン、電話サービスに回答する方法、ポスター掲示活動の行い方などですが、無償で与えられたことをお返しすることによる成長の楽しさについても抜きなく伝えられました。また、シカゴランドリージョンで「PRウィーク」を祝うために、14のエリアでそれぞれ少なくとも1つのイベントを行ってもらうことにしました。エリアとグループの多くが、NAの書籍寄贈とポスターの掲示活動をするにしましたほか、新しいメンバーがスピーカーをするイベントを行ったエリアもありました。サービスに心をつくせるって、ありがたいことですね。

ローラ・M

(シカゴランドリージョンPRサービス小委員会)



アテネのPRイベント

親愛なる仲間のみなさん、ギリシャのアテネからありったけの愛を贈ります！アテネでは「PRウィーク」の間に2つの大きなイベントがありました。最初のイベントは、6月6日木曜日、午前9時から午後7時まで、バルバキオス中央市場の近くで行われました。次のイベントは、6月8日土曜日の午前8時から午後11時まで、国会議事堂の向かいにあるシンタグマ広場で開催されたプライドフェスティバルで行われました。どちらの場所にもブースを設けて、NAの文献と情報を提供しました。どちらも成功でしたが、特にプライドでの成功によってNAの存在がはじめて知られることになったのです。

ゲオルグ・A (ギリシャ/アテネ)



アーカンソー リージョン (アメリカ合衆国)



アテネ (ギリシャ リージョン)



テッサロニキ (ギリシャ リージョン)



テッサロニキ (ギリシャ リージョン)



ヴェルデ&ロボルディーナ エリアサービス委員会 (ブラジル)



サービス センター

ウェブ会議

Q: みなさんは、どう利用していますか？

- サービスに関わっている仲間たちとつながってアイデアや経験を共有する。
- 自国や世界中にあるNAの成長に貢献する。
- サービス機関がもっとNAに役立てるようにさまざまなツールを開発する。
- 回復を求めているアディクトたちにNAのメッセージを運ぶ。

A: NAワールドサービスによって継続的に開かれるウェブ会議に参加しましょう。そうすれば、世界各地のNAがそれぞれの課題やアイデアや成功例を共有することによって、NAのさまざまなサービスの取り組みのために革新的なアイデアや解決策が交換できるのです。さらに詳しいことや参加方法については www.na.org/webinar をご覧ください。みなさんのアイデアや意見提供をお待ちしています。

継続的に開かれているウェビナー

- 受刑者によるステップライティング： 11月は「塀の向こう側のステップライティング・パーシックス」に焦点を絞って議論。みなさんの参加と、意見提供 (handi@na.org) をお待ちしております。
- ローカルサービスのツールボックス： 「CBDM(合意による意思決定)・パーシックス」と「遠隔地で孤立しているNAへのサービス提供」が完成。「GSRパーシックス」は製作中。詳しくは、www.na.org/toolbox をご覧ください。
- コンベンションとイベント： 10月15日までの見直し期間に、契約と交渉に関する資料が入手可能。今後の議題は、委員会の構成、安全と危機管理、グッズ販売、開催場所の決定など。さらに詳しく知るには、www.na.org/conventions をご覧ください。



検討すべき課題

「検討すべき課題(IDT：イシュー・ディスカッション・トピックス)」は、NA全体に影響を及ぼす問題についてメンバーたちの関心を高めるために、世界中のNAで議論を重ねるテーマです。また、IDTについて話し合うことは、グループやサービス機関のなかに一体性を築くことにも役立つでしょう。世界各地のNAで議論を重ねた結果は、ワールドボード (worldboard@na.org) と共有することでNA全体による資料作成やサービスの方向づけに役立ちます。ワークショップの概要、パワーポイントによるプレゼンテーション(説明資料)、配布資料をはじめとして、IDTに関するディスカッションやワークショップの開催に役立つ資料は、www.na.org/idt に掲載されています。

2018年～2019年のIDT:

- 「NAのメッセージを運ぶこと」と「NAに関心を持ってもらうこと」
- 「メンバーたちをサービスに引きつける」
- NAに関係のある「薬物代替療法(DRT)および投薬治療(MAT)」

www.na.org/idt

2020年度 ワールド サービス カンファレンス

2020年4月29日～5月2日
カリフォルニア州
ウッドランドヒルズ

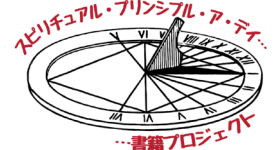
ワールドサービスカンファレンスに関しては最新情報をつねにチェックしておきましょう。各種の締め切り、調査、文書、プロジェクトによって、以下のサイトにある情報は定期的に更新されます。

www.na.org/conference

『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ』に関する書籍プロジェクト

第1回の見直しと意見提供は、9月1日に締め切られました。フィードバックを送ることで協力してくれたみなさんには、心からお礼をお申し上げます。NAの文献は、こうやってアディクトによってつくられるから、アディクトの役に立つのです。今後数ヶ月は、見直しと意見提供の原稿をお見逃しなく。

その間も、www.na.org/spadにある原理と引用の最新リストにもとづき、スピリチュアルな原理によって生きることに関する経験をお寄せください。なお、www.na.org/spadからは、接続機器による投稿や『SPAD』のワークショップに関する資料のダウンロードが可能です。



精神の健康や疾患に関する I P(インフォメーション パンフレット)

このIPプロジェクトに対して、投稿や見直しと意見提供によって協力してくれたみなさんに心から感謝しています。承認を求める原稿は、2020年度のカンファレンスアジェンダレポートに盛り込まれ、NA全体による見直しを行うこととなります。背景情報については、www.na.org/mhmi をご覧ください。

NAの祝日

毎年恒例となったNAの「祝日」は、2019年12月1日の「第2回 スポンサーシップデー」で2年目を迎えます。みなさんは、スポンサーシップデーをどのように祝いますか？

- ミーティングで、またはスポンサーシップによる「ファミリー」や親しい仲間たちといっしょに、NA文献の『スポンサーシップ』を読み合わせる。
- スポンサーシップをテーマにして、「スピーカージャム」またはスピーカーミーティングを開く。
- スポンサーもしくはスポンサーに関するイベントを開催する

スポンサーシップデーに関するみなさんのアイデアや成功例をぜひお知らせください
案内チラシは、ここをクリックまたは www.na.org/nawsevents で入手可能です。



worldboard@na.org

ECCNA 35: コンベンションを成功させる

テントによる初めてのECCNA

スイスのNAは、2019年に30周年を迎えます。しかし4年前には、一般の人たちはおろか依存症治療の専門家たちにさえも、まったくと言っていいほど知られてはいませんでした。スイスに自国のリージョンが設立されたのは2012年になってのことで、それまではずっと、フランス語によるNAはフランスリージョン、ドイツ語のNAはドイツリージョン、そしてイタリア語のNAはイタリアリージョンといったぐあいになっていたのです。スイスリージョンの誕生とともに、NAのことを国内に周知することを主な目的としてリージョンのPR小委員会も結成されました。そして4年ほど前、「NAヨーロッパカンファレンス&コンベンション (ECCNA)」を主催すればスイスでNAの知名度が高まるのではないかという話が、このPR小委員会で持ち上がったのです。私たちは、市外にあるコンベンションセンターなどを会場にしたいと思いませんでした。そのようなところで開催しても、一般社会に働きかけることはできないと思ったからです。そこで、スイスで初めて開かれるNAの集会には、かつてヨーロッパ最大の野外ドラッグシーン(麻薬の世界)として知られた「プラッツスピッツ公園」にテントを設置して開催するという案が浮かびました。

ただ、スイスリージョンは大きくないので、ECCNAの開催が可能かどうかわかりませんでした。PR小委員会ではワークグループを立ち上げて検討し、可能だと決まると、ECCNA開催を支持するかどうかをスイスのNA全体に問いかけてきました。

そして2016年5月のリージョンの集会では、開催に対して圧倒的な支持が得られたことで、まずはヨーロッパデリゲートミーティング (EDM) に提出する入札書類を作成すべく、準備委員会のメンバーたちを選出しました。

開催場所が公園であるため、入札書類作成は大仕事になりました。プラッツスピッツ公園でのイベントには市の許可が必要でしたが、ここ何年もの間に開催が許可されたイベントは2つしかなかったのです。市長は、私たちが支持してくださり、私たちが入札に勝ってNAメンバーたちがチューリッヒを来訪するのを心待ちにしているという手紙をいただきました。また、国立博物館や市内最大の青少年文化会館など、公園の周辺にある団体とも協力関係を築いていったことで、部屋やスペースを多く確保できたうえに、テントを提供するという申し出もいくつかありました。スイスは物価が高いこともあり、だれもが来られるよう

にしたかったので、2泊の滞在費用と登録料を込みで49ユーロというとても手頃なパッケージツアーを企画しました。最後に、短い動画や配布資料の制作をはじめとして、入札のプレゼンテーションに必要な予算と書類一式をまとめました。

スイスのデリゲート(リージョンの代表)に勝ち目があるかどうかは、確信が持てませんでした。過去には有力な候補地とみられても選ばれなかったリージョンもあるし、どのみち、私たちが会場とするのは典型的なリゾート地でも海辺でもないもので、きっと見劣りするだろうと思っていました。それでもなお、私たちは2016年にパリで開催される春季EDMに向けて入札の準備をしたのですが、ECCNA 35の開催はまだ3年先であることから誘致を表明させてもらえませんでした。そして2017年にキエフで開催される冬季EDMで、ほかのいくつかのリージョンと誘致を争うことになったのです。ところが、キエフで誘致を表明したのはスイスだけでした。こうして入札はうまくいき、ECCNA 35は、2019年の夏にチューリッヒで開催されることになったのです!!





こんな小さな会場で イベントを開催する

私たちは何度か小さなコンベンションを開催してきましたが、今回ほど小さな会場ではありませんでした。

そこで、ECCNAのガイドラインをじっくり読んで、これまでにECCNAを開催したことがあるアディクトたちとインターネットによって知り合いました。ガイドラインでは、大会の運営委員会とさまざまな（少なくとも10種類の）小委員会による連携を推奨しているため、ひとりでも多くのメンバーに関わってもらえるようにしました。ECCNA 35の開催2年前には大きな部屋を借りてメンバーに集ってもらい、さまざまな小委員会の説明をしてから、コーディネーター（調整役）の選出とそれぞれの小委員会への登録を行いました。出席したメンバーは約60人。その多くが2年後の開催までずっと関わっているのは無理だったので、各小委員会が2人の共同コーディネーターを選出するようにしたら、非常に役立つことがわかりました。あとは開催準備を進める過程で、さらに多くのメンバーに委員会への参加を呼びかけるようにすればよいだろうということで、小委員会はそれぞれに活動を開始しました。

開催の2年前には、実行委員会は月に1回のウェブ会議を開き、全体会議も2回だけ開催しました。そして開催の1年前には、毎月、実行委員会のメンバー全員と各小委員会のメンバーが少なくとも1人集まって、運営委員会を開きました。こうして毎月集まることで、各小委員会の最新情報がすぐに伝わるようになり、また、イベントのプログラムや、食べ物の値段や、グッズ販売に関することなど、いくつかの議題について詳細に話し合うこともできました。重要な決定はすべて、合意にもとづく意思決定（CBDM）によって行われました。NAのさまざまなサービスの会議にくらべても、ECCNAの運営委員会では実に多くの決定を行わなければならないので、CBDMが非常に役立ちました。

解決しなければならない大きな問題の多くが、公園という特殊な場所から来るものでした。市から公園使用の許可をもらうこと自体がむずかしく、3日間まるまる使用する許可は言うに及ばずありません。市内で最も美しい公園のひとつにテントを設置することには、市の造園局による同意が必要でした。公園の基礎構造や設備を一切損なわずに会場を設置して解体しなければなりません（たとえば、テント設置には避雷が必要で芝生に穴を開けることになるため、そんなことはまず許されないでしょう）。また、私たちは公園敷地内でフェスティバルの開催も予定していたため、部屋をいくつか余分に確保できるように国立博物館や青少年文化会館にも協力をあおぐ必要がありました。これによって、テントを2つと、参加者用のトイレをいくつか設置することができました。さらに、私たちが自前で用意する技術設備も難題



でした。たとえば、テントに入れるのはわずか600人であったため、中庭と講堂へのライブビデオリンクを編成しました。

この途中で、ものすごく不安な時期を経験したメンバーは少なくなく、何人もの共同コーディネーターが姿を現さなくなったり役割を降りてしまったりしたのです。それでも、このイベントはうまくいくと信じ、開催のために努力するなかでみんなをやる気にさせて支援しようとするメンバーもいました。そのようなメンバーがつねに何人かいてくれたことが、私たちにとっては非常に重要でした。

どのように、そしてなぜ、うまくいったのか

私たちのECCNAは、水曜日に始まりました。まず、テントの土台づくりをしたのです。木曜日には、メンバーによって巨大なテントが張られ、深夜になるころには技術設備とビデオリンクが完全に整備されて稼働状態になっていました。それ以降は、24時間体制でテントを守らなければならないため、何人かのメンバーが一晩泊まり込むことにもなりました。

ECCNA 35には、約900人のメンバーが事前登録をし、さらに専門家による100人の登録がありました。1,200~1,700人の参加者を想定していたところ、50か国以上から1,400人が訪れることになりました。登録ブースは手際よく対応できるようになっていたのも、長い列ができるということもありませんでした。金曜日の午前10時に開場すると、メンバーが次々とやってきました。登録ブースでは、さまざまな食べ物や飲み物を手に入れることができる「フード&ドリンクカード」も販売しました。これは非常に人気があり、毎晩完売しました。すぐそばに設けられたグッズ販売コーナーも、ほぼ完売状態で、タオルとパーカー類がいくつか残っているだけでした。そのほか、ここ



には案内所も設けて、支援や緊急時の対応ができるようにしました。

公園を会場にしたので、天候は非常に重要でした。当日は、寒すぎず、暑すぎず、申し分のない天気でした。よく晴れていたため、コンベンション会場のそばを流れる川では、たくさんのメンバーたちが川にかかる低い歩道橋からの飛び込みを楽しんでいました。

会場には、ミーティングの部屋を3つと連続で開かれるマラソンミーティングの部屋をひとつ設けました。本番となる土曜日には、さまざまなミーティングがひっきりなしに開かれ、そのほとんどが2人のスピーカーによる1時間のワークショップでした。そして連日、1時間半にわたってメインスピーカーによるミーティングが開かれました。土曜日の夕方にはクリンタイムのカウントダウンがあり、日曜日には参加国の紹介が行われました。今回のメインミーティングはどれも長すぎず、時間通りに開始されるようにしたことで、途中で退席するメンバーはほぼ一人もいなかったというわけです。NA YAIR*の若いメンバーたちは、金曜日の午後のワークショップと若いメンバー向けのミーティングを2つ開催し、金曜日のメインミーティングのスピーカーを選びました。こうして若いメンバーたちがコンベンションに欠かせない存在となっていけば、メインミーティングのスピーカーが数十年の経験を持つ年配のメンバーばかりになるということもなくなるでしょう。（訳注：*NA YAIR：NA ヤング・アディクト・イン・リカバリー；NAで回復の道を歩む若いアディクトたち）

ほとんどのミーティングが英語で行われ、本会場のテントで行われたミーティングは毎回さまざまな言語で通訳されました。土曜日のメインミーティングは、6カ国語で同時通訳されました。スマートフォンによる実に単純な翻訳機能（ログインなしで、アプリも不要）とスイス・リージョンが所有する120種のハードウェアデバイスの組み合わせを使用しました。

土曜日の夕方5時には、「プラッツスピッツを去る方法」というテーマでミーティングを開きました。プラッツスピッツは、かつてヨーロッパ最大のオープン・ドラッグ・シーン（野外の麻薬世界）であったため、プラッツスピッツに関する思い出がないというメンバーはほとんどいませんでした。その多くが、この週末には



新しい思い出を作ることができたのではないのでしょうか。あるメンバーは、「いわくつきの場所に戻っても、美しい夏の日に愛と癒しを感じれば、ひとは変わるし、そのひとの過去を振り返る目も変わるだろう……それによって、心に蘇るものは、かつての恐怖と闇ばかりではなく、いくらかの暖かさと愛に包まれたものになるかもしれない」とわかちあってくれました。

土曜日は、いかしたライブバンドと数人のDJによる素晴らしいパーティーがあり、メンバーたちは老いも若きも一緒になって夜を踊り明かしました。翌日は早朝から、公園でヨガと瞑想のセッションを行いました。日曜日の午後3時に、私たちは会場を閉鎖して掃除をし、月曜日には本会場のテントを引き裂き、夕方までに公園はすっかり元どおりになっていました。

スイスの100万人以上の住民に広報活動を実施

チューリッヒでECCNAを開催するために、私たちはPR小委員会も結成しました。開催後、その活動はリージョンのPR小委員会に引き継がれることになりました。すでにリージョンのPR小委員会があれば、そのまま広報活動ができるでしょう（開催前に交流があったほかのいくつかのリージョンも、このような広報活動を勧めていました）。広報活動は、イベントがあるときだけやるわけでも、イベントが終わったらやめるといってもありませんからね。

私たちは、スイス・リージョンの仲間たちに関心をもってもらうために短編の映像を制作し、ECCNA 35開催の1年前に初めて公開しました。また、NAのロゴ入りの赤いシャツをつくって、40人のメンバーにポーランドのECCNAで着用してもらったのです。密かにフェイスブックによるグループも立ち上げました。そして、ポーランドのECCNAが閉会すると、私たちの事前登録が始まりました。

2018年にオーランドで開催されたNAワールドコンベンションでは、私たちが制作した映像を紹介する機会がありませんでしたが、できるだけ多くのWCNA参加者にECCNA 35の開催を知ってもらえるように全力を尽くしました。私たちと連絡を取り合っているEDMのメンバーは、オーランドのWCNAで金曜日の夜にスピーカーとしてわかちあう

さいにECCNA 35に関する情報を提供して、シャツも配ってくれました。そして、

私たち自身もECCNA 35のシャツを着て、数千枚の案内チラシを配りました。WCNAが終わってからは、WCNAアプリを介して数百のメッセージをメンバーたちに送信しました。このほか、www.na.org/eventsのオンラインカレンダーと『NA Way マガジン』にもイベントの情報を掲載したのはいうまでもありません。

ECCNA 35では、金曜日の午後に専門家向けの特別イベントも開催しました。これは、「専門家によるアディクトの支援と自助グループを連携させる方法」について専門家によるプレゼンテーション、ふだんから専門家に提供している「NAの説明」、「このコンベンションでミーティングを体験してみ

ませんか」という3部構成で行いました。私たちは多くの関係機関をリストアップし、電子メールで1,000通を超える招待状を送信したところ、当日には100人以上の専門家が参加してくださいだったので大成功といえるでしょう。

私たちは、メディアで働いているメンバーたちに協力してもらい、すでにわかっている連絡先を使用して、報道関係者にも関わってもらえるように努力しました。これにより、1時間のドキュメンタリー映像が制作され、ECCNA 35開催の約2か月前にスイスの全国放送のテレビ局で放映されたのです。このほかにも、開催前に2つの大きな記事が新聞に掲載されました。そのひとつは、スイスの大衆紙に「アディクトたち、ブラッツスピッツに戻る」という見出しで掲載されました。

開催の数週間前には、さまざまな放送局にメールを送りました。交渉のうまいメンバーたちは、いくつもの新聞社に電話をかけてECCNAの特集を組んでもらえないかと働きかけました。こうしたことで、ECCNA 35のことは全国放送される重大ニュースで約3分間にわたって伝えられたほか、さまざまな新聞に10以上の記事が掲載され、テレビやラジオの番組でインタビューが紹介されるなど、大きな成果がありました。ECCNA 35の開催によって、NAのことは100万を超えるスイス国民に知られるところとなったのです。

役に立つことをして、問題を解決し、心から感謝する

このようなイベントを企画することによって、私は短期間で多くのことを学ばせてもらい、新しい方法で多くのメンバーと知りあうこともできました。サービスは、私の回復に欠かせないものとなっていて、いろんな仲間との出会いが始まる場でもあります。ECCNA 35は、スイスリージョンの多くのメンバーに新しい方法で役に立つことをする機会を与えてくれました。そして、世界各地のNAによる経験やスキルを活用させてもらったことによって、スイスリージョンのNAはものすごくしっかりしてきました。NAの伝統に従うことと合意にもとづく意思決定を行うことで、会議が大論争の場にならずにすんだし、メンバーたちは決定に全面的に同意していなくても関わり続けることができました。運営委員会の会議を終えた夜には必ずといっていいほど、私は回復によって生きられることに心から感謝し、NAという集まりを本当に誇らしく思ったものです。

公園の基礎構造や設備に関する問題が解決して開催まであと1年になったとき、ブラッツスピッツはまたとない場所で、NAの仲間たちには特別な交流の場になるから、ECCNA 35は素晴らしいものになるだろうと確信しました。けれども、このコンベンションはそんな私の想像を遥かに上回るものになりました。参加者の多くが本当に素晴らしい週末になったと言い、大きな意義を見いだしたメンバーや、これまでに参加したなかでも最高のコンベンションのひとつだったとするメンバーもいました。そして、この週末をとおしてずっと、実に多くの仲間たちが役に立とうとしてくれました。私は、そのことがなんとうれしく、感謝の気持ちでいっぱい、いたく感動させられました。ECCNA 35の開催期間中にサービスに関わってくれたみなさん、ほんとうにありがとうございました。こうしてECCNA 35の開催は成功し、それによってナルコティクスアノニマスのことがスイスの専門家と国民の間に広く知られることになったのです。ECCNA 35では、1,400人のアディクトが集まることで回復は可能であることを示しました。それが、まだ苦しんでいるアディクトたちの何人かでもNAにつながるきっかけになればと願うばかりです。

ECCNA 35 開催運営委員会 フィリップ・K
(スイス/チューリッヒ)

匿名戒毒会： 中国語版『ベーシック テキスト』

何年にもおよぶ献身的なサービスのおかげで、中国語による『ベーシックテキスト』の翻訳が完了しました。2019年5月、NAワールドサービスは中国の北京へ行き、国際薬物および薬物乱用防止非政府組織連合(IFNGO)によるカンファレンスに参加しました。このカンファレンスでは、中国全土から集まった専門家たちに中国語版『ベーシックテキスト』が200冊配布されたことで、何人かの専門家たちから、NAのミーティングを始めることについてたずねられました。この中国語版『ベーシックテキスト』の誕生を機に、北京と上海のNAメンバーたちは中国でNAを広めてしっかり根づかせるべく、治療センターや専門家との協力関係を築いていこうとしています。



Afrikaans Basiese Tekst: アフリカーンス語版 『ベーシックテキスト』

2019年3月30日は、アフリカーンス語で『ベーシックテキスト』が読めるようになったことを祝う日でした。ヨハネスブルグエリアが主催したイベントでは、1日中さまざまなミーティングが開かれ、『ア・スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ』に関するワークショップを開催したほか、音楽はもちろん、仲間たちとの交流も楽しみました。メンバーたちはヨハネスブルグ郊外のブルマに集い、夏に別れをつけながら新しい本を手にする喜びをかみしめていました。





グループ紹介

NA Wayでは、世界中のNAからミーティング会場やイベントの写真が送られてくるのをお待ちしております。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご遠慮ください。なお、写真には、グループやイベントの名称、所在地および国名はもちろん、グループやイベントが誕生してどのくらい経つのか、ミーティングの形式やイベントで大事にしている習慣、ユニークな点など、グループやイベントの紹介文を添えていただくようお願いいたします。宛先は、naway@na.org となっています。



トルコで最初のNAグループ

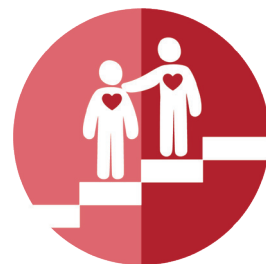
イスタンブールの「アクショングループ」が初めてミーティングを開いたのは、1993年10月6日でした。まさに、この日が、トルコのNAの始まり。「アクショングループ」は、トルコでいちばん最初にできたNAグループなのです。これまでの26年間には、何度かミーティング会場を変更しました。メンバーの顔ぶれも変わって、グループ誕生の頃からずっといるメンバーは2人だけになりました。グループが年をとるにつれて、グループのメンバーはどんどん若くなっています。私は、この「アクショングループ」で回復の旅を始めたのです。それから旅を続けるなかで何度かホームグループを変わり、新しくできたいくつかのグループの支援にも尽くしました。そして2年前に、古巣である「アクショングループ」に戻ってきたのです。最初は溶け込むのに苦労しましたが、ある日、ふとトイレ掃除をしてみようと思い立ち、そのおかげでホームの一員になったのです。我が家に勝るものはありません。「アクショングループ」のミーティング スケジュールは、www.na-turkiye.orgで確認できます。みなさんがイスタンブールを訪れることがあれば、ぜひ、タクシム地区の「アクショングループ」にいらしてください。自分が手にしたものは、手放すことによって自分のものになる…。

ベトゥール・B(トルコ/イスタンブール)

2年目となるNAの祝日

スポンサーシップ デイ

2019年12月1日 (日)



みなさんは、スポンサーシップ デイをどのように祝いますか？

- ・ミーティングで、またはスポンサーシップによる「ファミリー」や親しい仲間たちといっしょに、NA文献の『スポンサーシップ』を読み合わせする。
- ・スポンサーシップをテーマにして、「スピーカージャム」またはスピーカミーティングを開く。
- ・スポンサーもしくはスポンシーに関するイベントを開催する

スポンサーシップ デイについて、みなさんのアイデアや成功例をぜひお知らせください：

wordboard@na.org



スポンサーシップ デイ のメダルもなくなり販売！



カレンダー

Multiday events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or *The NA Way*; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Barbados

Christ Church 14-17 Nov; Barbados Area Convention; Barbados Beach Club, Christ Church; <http://nabarbados.org>

Brazil

Goiás 7-10 Nov; Convenção da Região Brasil 21; Hotel Pousada dos Pireneus Resort, Pirenópolis; <https://convencaoregiaobrasil.com.br/>

Ceará 15-17 Nov; First Arco-Iris Convention; Hotel Porto Futuro, Fortaleza; event info: sydeam@yahoo.com.br; write: Praia Area/Nordeste Region; Rua Tabajaras, 616; Praia de Iracema

India

Jodhpur 9-11 Jan; Indian Regional Convention 10; Hotel Rajputana Palace, Jodhpur; <https://naindia.in/>

Portugal

Estoril 23-24 Nov; Linha Area Convention 24; Auditorio Sra Boa Nova, Estoril; <https://www.xxivcanlna.pt/>

United States

California 20-22 Dec; San Diego/Imperial Counties Regional Convention 34; Manchester Grand Hyatt, San Diego; <https://sdcrcna.myshopify.com/>

(2) 17-19 Jan; Monterey Bay Area Convention 8; Monterey Conference Center, Monterey; <http://mbcna.org>

Connecticut 3-5 Jan; Connecticut Regional Convention 35; Mystic Marriott Hotel & Spa, Groton; <http://www.ctnac.org/>

Florida 8-11 Nov; Serenity in the Forest 3; Orange Springs Retreat Center, Orange Springs; <https://forestareal.wixsite.com/spiritualretreat>

(2) 8-10 Nov; South Florida Regional Convention 24; Marriott Harbor Beach Resort, Fort Lauderdale; <https://sfrca.com/>

(3) 7-12 Dec; Chicagoland Region Cruising Not Using 2; Carnival Cruise Line, Miami; <http://www.chicagona.org/>

Illinois 8-10 Nov; Greater Illinois Regional Convention 23; Decatur Conference Center & Hotel, Decatur; <https://centralillinoisna.org/>

centralillinoisna.org/

(2) 7-12 Dec; Chicagoland Region Cruising Not Using 2; Carnival Cruise Line, Miami; <http://www.chicagona.org/>

(3) 2-5 Jan; Chicago Regional Convention 32; Hyatt Regency McCormick, Chicago; <https://www.crcofna.org/>

Louisiana 8-10 Nov; Camp Recovery; Lake Bistineau State Park, Doyline; <https://nlana.net/camp-recovery/>

Massachusetts 10-12 Jan; Boston Area Convention 19; Boston Park Plaza Hotel, Boston; <https://nerna.org/calendar/>

Missouri 22-24 Nov; Saint Louis Area Convention 10; Sheraton Westport Chalet Hotel, Saint Louis; <https://www.slacna.org/>

Nevada 8-10 Nov; Sierra Sage Regional Convention 24; Grand Sierra Resort, Reno; <https://www.sierrasagena.org/>

New York 22-24 Nov; Westchester Area Convention 3; Crowne Plaza Downtown, White Plains; <https://waccna.org/>

Ohio 29 Nov-1 Dec; Unity Weekend 6; Quality Hotel & Conference Center, Blue Ash; <https://www.nacincinnati.com/>

(2) 3-5 Jan; Central Ohio Area Convention 28; Renaissance Downtown, Columbus; <https://centralohionarcoticsanonymous.org>

South Carolina 8-10 Nov; The Ultimate Narcotics Anonymous Convention 4; Landmark Resort, Myrtle Beach; <https://www.tunacon.org/>

(2) 29 Nov-1 Dec; Serenity Fellowship Reunion 4; Seamist Resort, Myrtle Beach; write: New Beginnings Group; 2501 Clark Avenue; Raleigh, NC 27607

Tennessee 28 Nov-1 Dec; Volunteer Regional Convention 37; Chattanooga Marriott, Chattanooga; <https://www.vrcna.org/>

Virginia 10-12 Jan; Virginia Regional Convention 38; DoubleTree, Virginia Beach; <http://www.avcna.org/index.html>

Washington 8-10 Nov; Western Service Learning Days; Marriot, Sea-Tac; <https://wsld.org/>

Products Coming Soon

Arabic

It Works: How & Why

إنه ينجح

Item No. AR1140 Price US \$9.55/8.40 €

Lithuanian

It Works: How & Why

Tai veikia: kaip ir kodėl?

Item No. LT1140 Price US \$9.55/8.40 €

Latvian

NA Step Working Guides

Vadlīnijas darbam ar Soliem

Item No. LV1400 Price US \$9.00/7.95 €

Russian

Basic Text (Sixth Edition)

Анонимных Наркоманых

Item No. RU1101 Price US \$12.15/10.50 €

eLit

now published

*Guiding Principles:
The Spirit of Our
Traditions*

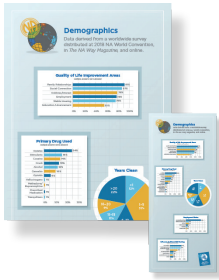
Hungarian Basic Text

Amazon • Barnes & Noble
Google Play • iTunes

www.na.org/elit



NAWS Product Update



Demographics poster

2018 Membership Survey
full-color vinyl poster (35" x 80")
to be used with I-stand frame.

Item No. 9092 Price US \$35.00/27.90 €

Spanish

NA: A Resource in Your Community
NA: un recurso en su comunidad
(versión de 2018)

Item No. SP1604 Price US \$0.42/0.36 €

Restocked due to
popular demand!



I SERVE lapel pin
We All Are PR note cube

Item No. 9600 • Price US \$5.00/4.45 €

Item No. 9601 • Price US \$5.50/4.90 €



Swedish

IP #13: *Av unga beroende,
för unga beroende*

Item No. SW3113 Price US \$0.33/0.28 €



Tamil

IP #7: *நான் அடிக்கீதானா?*

Item No. TA3107 Price US \$0.25/0.22 €

IP #11: *ஸ்பான்சர்ஷிப்*

Item No. TA3111 Price US \$0.25/0.22 €

Group Reading Cards (Set of 7 Cards)

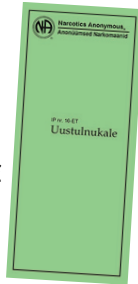
Item No. TA9130 Price US \$4.90/4.50 €



Estonian

IP #16: *Uustulnukale*

Item No. ET3116 Price US \$0.25/0.22 €



Japanese

IP #29: *ナルコティクス アノニマス
ミーティングガイドブック*

Item No. JP3129 Price US \$0.25/0.22 €

Translated PR Pamphlets

updated to 2018 Fellowship survey of approximately
28,495 NA members are now available

Membership Survey

Italian [IT] & Spanish [SP]

Item No. 2301 Price US \$0.32/0.29 €

Information about NA

Greek [GR], Italian [IT], Portuguese (Brazil) [PB],
& Spanish [SP]

Item No. 2302 Price US \$0.32/0.29 €

Latvian

Basic Text (Fifth Edition)
Anonīmie Narkomāni

Item No. LV1101 Price US \$8.30/7.25 €



Portuguese (Brazil)

It Works: How & Why

Funciona: como e por quê

Item No. PB1140 Price US \$9.55/8.40 €

Russian

Russian Membership Survey

Опрос членов АН Россия

Membership survey based on responses
from Russian NA members

Available online only www.na.org/PR

